孔雀の樹に就いて

国枝史郎

青空文庫

最近読んだ内外の作で、最も感銘の深かったのは、小酒井不木氏翻訳のチェスタアトンの「孔雀の樹」です。探偵小説としての筋立てから云っても、（非常に新鮮では無いにしても）一流の作に属す可きもので、最後の殿様ヴェーンの出現や、医師ブラウンが真犯人で無いなど——いや一切この事件に犯罪が無かったということなどは、最後のカーテンの下ろされるまでどんな読者でも考えられなかったでしょう。謂う所の龕燈返しが用いられて居るが、龕燈返しのための龕燈返しで無くて龕燈返しをすることに由って、人生的乃至社会的の意味を裏付け、強調した点などは、以て範とすべきでしょう。現われて来る人間が、みんな哲学者だという事なども、チェスタアトンの作らしく、甚だ愉快という可きでしょう。つまり作者は登場人物をして作者自身の思想なるものを、代弁させているようです。もう一つ此作での特色は、その人間の現わし方が、対象的であるという事です。地主に対する小作人、詩人に対する批評家、迷信者に対する科学者等、実に巧に出来て居ります。往々此種の作品は「拵え物」としての欠点を暴露するものでありますが、是には夫れが見られません。そうして此作は暖くさえあります。含蓄を持った無数の警句を縦横に駆馳している点は、チェスタアトンとしては常套ではあるが、しかし矢張り頗る愉快で、時々案を打たせられます。光彩派の絵でも見るように、人物風景がクッキリと、陰影を持って現わされて居るのは、チェスタアトンの描写の筆の、優秀であることを思わせられます。詩人と令嬢との恋愛をはぶき、唐突に結婚を持ち出して来たのは、ツム

ジ曲がりのチェスタアトンらしく、私にはひどく愉快でしたが、恋愛好きの読者には或は不満かもしれません。仏蘭西の作家にでも書かせたら、或は二人の恋愛描写に全力を注いだかもしれません。

探偵小説というようなものも、単なる思い付やトリックばかりに終始していたのでは駄目だという事や、作家が思想家で無いことには、可い探偵小説は出来ないということを、このチェスタアトンの「孔雀の樹」は証拠立てて居るようです。

探偵小説の作中へ、思想質を織り込んでも、充分面白いということや、探偵小説が芸術化されても、又一義を目差しても、決して興味を失わないばかりか、一層面白いということ等をも、この作は証拠立てているようです。しかし或は此作をも、「死の爆弾」を非議した人達は、同じように非議するかも知れません。

面白可笑しい物ばかりが、大衆物の目的ではありません。だが大衆は何ういう作を、要求しているかということは、知る必要がありましょう。その大衆の要求に投じ、面白可笑しく読ませることに由って、大衆物へ食い付かせ、面白可笑しく読ませている中に、作者の思想を読者に伝え、以て味方とし同志とする。こうでなければならない筈です。そうしてチェスタアトンの「孔雀の樹」は、それにピッタリあてはまった物だと、尠くも私には思われます。小酒井不木氏の訳筆が、流麗であるというようなことは、もう云う迄もありますまい。

青空文庫情報

底本：「国枝史郎探偵小説全集　全一巻」作品社
　　2005（平成17）年9月15日第1刷発行
底本の親本：「新青年　増大号」
　　1926（大正15）年4月
初出：「新青年　増大号」
　　1926（大正15）年4月
入力：門田裕志
校正：北川松生
2016年3月4日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

孔雀の樹に就いて

国枝史郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/